

北見武道通信

令和7年7月17日 00752号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp



ニュースレター【事務局情報】北見市総合武道祭空手道演

武！ 6月14日（土）第29回北見市総合武道祭③番目は、北見市空手協会「成田道場俊空会」基本形・組手応用演武など披露されました。草薙満四段解説で伊藤功一、西津^{かなめ}要準八級（写真左）西津優子、樽見騰、樽見和など各会員が演武を行いました。大トリは橋本^{りつこ}律子二段（写真右）が【五十四歩小】を演武しました。（佐藤）

対岸 （短編小説）



あちら側から、声がする。

川を隔てている。明かりがぼんやりと夜の暗闇をともし。何か、火をたいているようである。

私はそんな向こうの様子を眺めている。

こちら側には誰もいない。明かりもついていないので、向こうの人々もこちらに人がいることにはそう気付かない様子だ。

「帰ってしまおうか」

焚火のパチパチという音がこちらまで聞えてる。笑い声も起こっている。

私の足の裏には河原の砂利のひんやりとした感触が伝わってくる。

不意に、水音がした。向うの一人が川の中に飛び込んだらしい。笑い声は一層大きくなる。自分はますます無口になる。

対岸の宴は、その後も延々と繰り広げられていた。 〈ゆいか〉

連載「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>指導上の根本問題

○熱意

先ず第一に私は指導に、熱心^{ねっしん}ということを要求したい。指導者の熱心^{ていど}の程度が高ければ高い程後進者の修行を力あらしめる。若し、後進者が非常な熱心を以て修行^{しゅぎょう}しているにも拘らず、その指導者の熱心^{ねっしん}が缺けているとしたら、いつの間にか、その修行者の熱心は冷却して仕舞って遂には修行を止めてしまう事にもなる。之に反して、指導者が火の如き熱心さを以て指導すれば、指導者の熱心が足りない場合にも、修行者も亦、いつか熱心になり、熱心になった結果、そこに異常の興味^{きょうみ}が湧き、ひいては心身の修養が目に見えて出来て来るので、修行者自らもいよいよその向上に興味^{きょうみ}と自信を持ち、更にその熱心の度を高めて来る。故に先ず第一にこの熱心という事を挙げるのである。尤もいくら指導者が熱心であつても、修行者の熱心がこれに伴わない場合^{ばあい}もある。だが、かかる時、とてもこの修行者は駄目だと断念して仕舞ってはならない。私はそんな場合にはこれはまだ自分の熱心^{ねっしん}がたりぬからだ、更に一層の熱意^{ねつい}を以てこれが指導にあたる。かくすれば、大抵、己の熱誠^{ねっせい}が修行者に通づるものである。つづく